

令和4年度 北茂安中学校 学校経営計画

(1) 令和4年度 学校教育全体計画（学校経営方針）		みやき町立北茂安中学校	
学校教育目標 夢と目標をもち 未来をひらく 北中生 ～「よさ」に気づき「やさしさ」をもち「たくましさ」をそなえた生徒の育成～			
学校経営改善と学校評価の推進	校訓	● 自律…自分の行動を自ら立てた規範に従い、正しく規制する	
	学校経営目標 (本校の使命)	① 「自己有用感・自己肯定感」を育み、自律した生徒を育成する。 ② 「知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）」の調和のとれた生徒を育成する。 ③ 安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。	
	めざす生徒像	① 自分の よい ところを知っている生徒 ② 他の人にも やさしく できる生徒 ③ いろいろな人と協力して課題を解決しようとする生徒 合言葉「北中YT(ワイ・ティ)」 Y…よさの自覚、やさしさ発揮 T…タフな心身、多様な考え	めざす学校像 ① 地域とともにある学校 ② 信頼される学校 ③ 安全で落ち着きのある学校 めざす教師像 ① 自分の強みを知っている教師 ② 学び続ける教師 ③ 心身の健康を大切にする教師
	重点目標	ア 体験活動をととして望ましい人間関係づくりを進め、人間関係形成能力を育成する。 イ 学ぶ意欲、学び方、学習習慣の育成と基礎・基本の定着を図り、学力の向上をめざす。 ウ 総合的な学習の時間における課題解決学習をととして、主体的に学ぶ態度を育成する。（学びの土台づくり） エ キャリア教育により自己の生き方を考えさせ、キャリアプランニング能力を育成する。（自己実現の土台づくり） オ 安心安全で生徒が明るく活動できる環境を作る。	
学校力の強化		人間関係形成能力 自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力	教師力の強化
キャリア教育【基礎的・汎用的能力】 確かな学力の育成 豊かな心の育成 健やかな体の育成 教科等指導の充実 学年・学級経営の充実 部活動等取組の改善充実 地域とともにある学校づくり（授業参観・講演会・各種通信・学校HP）			
学 校 ・ 保 護 者 ・ 地 域 の 連 携			

(2)教育指導の構想

① 本校の教育課題

- | | |
|----------|--|
| ○学力向上 | 学習意欲の向上、家庭学習の充実、活用力・課題解決力の向上 |
| ○豊かな心の育成 | 特別の教科「道徳」の充実、郷土愛・やさしさ・粘り強さの醸成 |
| ○生徒指導の充実 | 生活習慣・規律の向上、対人スキルの向上、SNS での問題防止 |
| ○特別支援教育 | 情緒学級 19 人、知的学級 6 人、病弱学級 1 人
その他支援が必要な生徒への対応 |
| ○不登校対策 | 不登校 1 年 2 人、2 年 2 人、3 年 7 人 |

② 本年度教育の重点目標についての具体的な取組

ア 体験活動をとおして望ましい人間関係づくりを進め、人間関係形成能力を育成する。

○体験活動の推進

- ・職場体験、福祉体験、ボランティア活動などを地域と連携して実践。
多くの人とのふれあいを通して、思いやりの心や感謝の心、勤労意欲、奉仕の精神など豊かな心を育てる。

○道徳教育の充実

- ・年間 35 時間の道徳授業の充実。教科横断的な指導、TT や輪番による指導体制を整備。
「伝え合う」場面の工夫、適切な見取りによる評価などを通して、生徒の人間力を高める。
全教育活動を通して人権や生命尊重の意識を育ていじめの未然防止につなげる。

○生徒会活動の活性化

- ・学習指導や生徒指導に関する内容も生徒会活動との関連を図り、自治的・自発的な活動を推進し、生徒の自律性を高める手立てを講じる。

イ 学ぶ意欲、学び方、学習習慣の育成と基礎・基本の定着を図り、学力の向上を目指す。

○意識調査やアンケートの活用

- ・学習適応性検査を実施し、学習指導や生活指導に活用。
生徒の授業に対する意識、家庭学習時間、生徒の学習計画性、SNS やメディアに費やす時間などを把握する。

○少人数学級、TT 授業の推進

- ・少人数学級編成によりきめ細かな指導を実施。
基礎・基本の確実な定着を図るために、TT 授業と個に応じた指導を展開する。

○授業づくりリーフレットや ICT 機器などの活用

- ・「授業づくりの 1.2.3」などのリーフレット、電子黒板やタブレット型 PC の有効活用。
効果的・効率的で分かりやすい授業づくりを推進する。

○校内研究の充実

- ・学習適応性検査などを活用した生徒の実態把握と指導方法の在り方を研究。

○学力学習状況調査の分析と活用

- ・全国学力・学習状況調査や県学習状況調査等の円滑な実施と結果分析と指導改善。
校内での各種テスト結果も含めて、生徒の学習到達状況を分析し、課題を把握し、解決に向けて取り組む。合わせて生徒の生活や学習の実態に応じた指導体制を充実させる。

ウ 総合的な学習の時間における課題解決学習をとおして、主体的に学ぶ態度を育成する。

○職場体験学習の円滑な実施

- ・職場体験学習を 2 年生で実施。コロナ禍にあり 2 日間実施予定。
望ましい職業観・勤労観を育てる。

○学級づくりの強化

- ・Q-U テスト、NINO 検査、NRT テスト、学習適応性検査の実施と活用。
共に学び合う授業（対話的な学び）づくりのため、構成的グループエンカウンターなど、

一人ひとりを尊重し合い高め合う学級集団づくりを行う。

○読書活動の推進

- ・ボランティア団体などによる「読み聞かせ」（朝の会）の実施。
学校図書館の利用を促すなど読書活動を推奨し、本に親しませ、気持ちを読み取る力や想像力、思いやりの心を育てる。

エ キャリア教育により自己の生き方を考えさせ、キャリアプランニング能力を育成する。

○キャリア教育の充実

- ・職場体験事前学習としてのマナー講習、企業人講話の実施。
社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できるなど社会人・職業人として自立していくことができるようにする。
- ・1年生は職業学習「働く人に学ぶ」、2年生は進路学習「先輩に学ぶ」を実施。
学級活動3年間の系統の中でキャリア教育の充実を図る。

○キャリアパスポートの作成

- ・引き続き、キャリアパスポートを作成。
将来への「夢」や「希望」を考えさせ、将来設計の力を身につけさせる。

オ 安心安全で生徒が明るく活動できる環境を作る。

○新型コロナウイルス感染症などへの感染防止

- ・換気、マスク着用、手洗い（消毒）の励行や加湿器の利用。
新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザなどの感染防止に努める。また、まちコミメールやホームページを活用し、保護者への適切な情報提供に努める。

○交通安全・交通マナーの向上

- ・自他の命を守るため、全校集会等で、事故事例を示した具体的指導の実施。
自転車並進や一旦停止違反などによる事故防止を中心に効果的な映像教材やロールプレイなどを取り入れ、生徒の行動変容に導く指導を行う。

③ その他、留意する取組

ア 生徒に対する取組

○生徒指導体制の構築

- ・教科等の授業も含め、生徒指導の3機能「自己肯定感の醸成・共感的理解の雰囲気づくり・自己決定の場づくり」を意識した指導の推進。
考えさせ気付かせる指導で規範意識の醸成を図る。また、学年主任と生徒指導主事に情報が集まるシステムを構築し、組織的に対応する。

○教育相談体制の充実

- ・「いじめ」や生徒指導に係わるアンケート調査の実施。定期教育相談の実施。
「いじめ」の早期発見・早期対応を行う。いじめ対策防止法等、長期休業中等の機会をとらえ職員研修会を開き、教育相談に対する対応力向上に努める。
- ・教育支援部会による定点観察
スクールソーシャルワーカー等を交えた不登校、不登校傾向生徒の状況を定期的に情報共有することにより、組織的な対応を進めていく。

○時間厳守の指導

- ・交通安全県民運動の期間に合わせた朝の登校指導、下校指導の実施。
教職員が率先垂範を心がけ、生徒の基本的な生活習慣の確立を促す。

○明るく元気な挨拶やきちんとした身なりの指導

- ・明るく元気なよい挨拶で一日がスタートできるよう朝のあいさつ運動を実施。
生徒会の自治的活動の中で身なりの在り方について考えさせる。

○掃除指導の徹底

- ・10分間の自問掃除を実施。

掃除開始前に掃除の意義やよさを講話し、生徒に考えさせる。3つの心（我慢・気づき・思いやり）を大切にして、師弟同行で指導する。

○部活動指導の充実

- ・複数顧問制。

生徒の「自主性・協調性・責任感・連帯感・社会性」を高め、「忍耐力や向上心を培い、達成感や成就感を味わう」ことのできる教育的意義をもつ部活動に対して、短時間で効果的な指導を工夫し、技術面のみならず、体力面や精神面の向上を意図して指導する。外部指導者・部活動指導員には、教育的配慮について共通理解し、生徒一人ひとりの発達段階や健康状態に十分配慮して、過度な負荷や負担とならないように留意する。

イ 教職員対象の取組

○業務の効率化

- ・勤務時間を意識し限られた時間での業務遂行の推進。

行事の精選、分掌事務の簡素化、教材の協同作成、共有化等を進め、業務量を減らすことにより、教職員が生徒と向き合う時間を確保するよう努力する。校務シェアボードや校内 LAN 共有フォルダを有効に活用し、職員間の連絡の効率化に努める。

- ・部活動複数顧問制や外部指導者や部活動指導員の効果的活用。

○メンターとしての学年職員の活用

- ・学年に所属するベテラン教師や中堅教師をメンター（支援者）にとらえ、若手教師が学ぶ機会を設定する。

道徳科や学級活動においては教材や指導方法を相互に共有し授業の質を高める。

○教諭補助職員の活用

- ・担任等の学年事務や学級事務等の負担を軽減し、その時間を教師間の相互授業参観、教材の協同作成等の時間にあてて、教職員の資質・能力の向上につなげる。

○学校生活支援員の活用

- ・令和4年度新たに配置された支援員を活用し生徒の安心安全な学校生活支援の充実を図る。

ウ 学校外と連携した取組

○地域とともにある学校づくりの推進

- ・ コミュニティスクール準備 地域や母校に対する誇りと愛着心を育むために、地域の「もの・ひと・こと」を活用した教育活動の展開。

「佐賀巡り」などの地域学習資料を活用し、生徒が地域での行事に参加する機会をもち、地域で見守りに感謝する指導を行う。

○小中連携の教育活動の継続

- ・小中授業参観や授業交流の実施。
相互理解を深め、生徒指導や学習指導に活かす。

○学校の情報発信

- ・学校だよりや学校ホームページ、学校情報携帯メール（マチコミ）を活用して情報発信。

学校教育活動、PTA 活動、地域での活動などの情報発信により、学校・地域・保護者の連携を図る。